

第6回熊本駅西土地区画整理事業地内地質調査に関する専門家会議要旨

日時：令和5年2月9日（木）午後1時30分～午後4時30分

場所：朝日新聞第一生命ビル 9階 はなしょうぶ

出席者：北園会長、渡辺副会長、椋木委員、田上委員、菰方委員、原島委員、事務局（熊本市5名）

1. 報告事項

1) 第5回専門家会議の振り返りについて

報告事項

- ・「第4回専門家会議の振り返りについて」「追加地質調査試験の結果について」に関する報告を事務局から行った。

審議事項

- ・「擁壁変状の原因について」では、A宅地の擁壁が傾いた原因は、盛土施工時の締固め不足であるとの結論に至った。
- ・「今後の安全性の確保について」では、1つの街区の4宅地で確認された擁壁背面盛土の緩み、擁壁基礎地盤の強度不足に対し、早急な対策の必要性はないものの、将来的な安全性に全く問題がないとまでは断定できないため、経過観察による対応が必要と判断した。
- ・「法的検証（過去のプロセス検証）について」では、施工前の盛土材料の選定、土質試験及び品質管理、施工中の品質管理が基準等に適合しているかを判定した。

2. 審議事項

1) 擁壁変状の原因解明について

- ・1つの街区の4宅地における民地境擁壁の沈下、道路境擁壁の傾き及び隣接街区のB宅地における擁壁目地剥がれの原因について審議した。
- ・1つの街区の4宅地については、今回の地質調査で土の緩みや強度不十分な箇所が確認されたこと、平成23年6月の豪雨で唯一擁壁変状が発生したことを考慮すると、擁壁変状の原因は、盛土の締固め不足及び市の監理不十分である可能性が高いと考えた。
- ・B宅地の目地剥がれの原因は、平成26年2月のものについては目地材の経年劣化、平成28年4月のものについては熊本地震であると考えた。

2) 現状の擁壁安全性について（1つの街区の4宅地）

- ・1つの街区の4宅地の擁壁について、擁壁の安定解析の条件及び安全性評価の基準について審議した。
- ・擁壁の安定解析は、より現状の土質に即した状態で検証するため、以下の条件で計算することとした。
 - ① 土質強度定数の換算式は、建築基礎構造設計指針に基づく。
 - ② 擁壁背面盛土の土質強度定数は ϕ （最小値）を用いる。
 - ③ 擁壁基礎盛土の土質強度定数は C （平均値）を用いる。
 - ④ 三軸圧縮試験値は有効応力表示の土質強度定数を用いる。

- ・現状の擁壁安全性については、擁壁に作用する力に対して抵抗する力が上回っているかを基準として評価することとした。
- ・将来の擁壁安全性については、設計時の安全率を基準値として評価することとした。